

7月30日(水) 本年度第5回(通算2740回)

新入会員卓話 担当/プログラム委員会

12時30分～釧路プリンスホテル

◆出席報告【会員総数65名 免除5名 出席計算に用いた会員数65名】
出席者 32名 出席率 50%

◆ニコニコ献金

- ・先週はどうもありがとうございました ～萩原 昭博君
- ・今日の新入会員卓話、宜しく申し上げます ～坂入 信行君
- ・後期高齢者まであて少し！やさしくしてね！？ ～石井 東洋彦君
- ・長くお休みしてご迷惑かけました。これから頑張ります ～菊池 美恵子さん
- ・お二人の卓話、宜しく申し上げます ～泰地 浩幸君
- ・新入会員卓話、宜しく申し上げます ～瀧山 周治君
- ・本日の卓話、宜しく申し上げます ～中田 清秀君
- ・新入会員卓話、瀧山さん、中田さん頑張ってください ～福田 雅嘉君
- ・新入会員卓話、楽しみにしています ～横田 國勝君

◆会長挨拶

皆様今晚は、2週連続の夜間例会に出席頂きまして有難うございます。
先週は、素晴らしい出発式を企画していただきましたクラブ奉仕泰地理事はじめ親睦委員会の皆様、感謝お礼申し上げます。無事出航致しまして、まず来週ガバナー公式訪問が御座います。会員の皆様にはご協力のほど宜しくお願い致します。

先週27日、日曜日に米山奨学会セミナーと、ロータリー財団セミナーに出席してまいりました。米山奨学会セミナーでは、モンゴルに米山学友会が設立されたと言う事と、ジャンプ先生の新モンゴル高校など、DVDを見ながら紹介しておりました。今年の秋には、新モンゴル工科大学も開校する予定です。

前年度米山奨学生は700名で、今年度20名増の720名との事でした。米山記念奨学会に対しましての寄付も宜しくお願い致します。ポリオに対しましてはあと3カ国アフガニスタン、パキスタン、ナイジェリア今現在確認されているのは115名だそうです。

ロータリー財団におきましては、皆様ご存じのように地区活動資金に(DDF)50%3年後に戻ります。前年度2500地区と致しまして1600万強の寄付をしております。これが3年後DDFとして50%800万近いお金が戻ってきて地区活動資金になるわけです。

今年度DDFは総額555万です。そこでご報告致します。1分区分から8分区分の合計金額が462万円(46200ドル)地区で93万円(9300ドル)合計555万円(55500ドル)です。

2500地区67クラブで申請したクラブは14クラブうち3クラブ合同が1か所御座います。7分区分は北とベイと釧路クラブです。7分区分の予算は72万円です私が提出した金額は、予算総額69万円のうち14万円をクラブで搬出すると言うものです。今回不足分55万円満額頂く事が出来ました。3年後は800万ちかいお金が戻りますので十分な奉仕活動が出来ると思っております。財団の寄付はクラブの財源でもありますので皆様財団に対しましての寄付を宜しくお願い申し上げます。

◆幹事報告

1. RI日本事務局より8月のロータリーレート1ドル102円の連絡が入りました。
2. 7月27日(日曜)帯広で開催の米山記念奨学会セミナー並びにロータリー財団セミナーに会長・幹事地区奨学金・財団学友小委員会委員の東海林会員と出席してまいりました。
3. 8月の第一例会、8月6日のガバナー公式訪問の出席を会場回覧とFAX、両方で取っておりますのでご理解宜しくお願い致します。また、当日クラブ協議会のお時間はお間違いないよう、理事、役員、各委員長並びに会員のみなさんの出席を宜しくお願い致します。
4. ローターアクトより「第13回北海道ローターアクト交流会」仮登録のご案内とアクト第3例会「河川敷清掃・親睦バレーボール例会」の案内がきております、並びに、西クラブ・東クラブ・南クラブ・ベイクラブ・根室クラブ・各クラブ様より8月の例会プログラムが届いておりますのでこちらも一緒に回覧させて頂いております。その中の西クラブの8月18日の第3例会に当クラブの平井委員長がゲスト卓話で講演されますのでメークアップされる方は是非、お願いします。
5. ロータリー雑誌、ザ・ロータリアンは回覧させて頂き、ロータリーの友、ガバナー月信が届いておりますのでパーソナルBOXに入れておりますのでお忘れなようご確認、お持ち帰り下さい。
6. 最後に先日の出発式は泰地理事をはじめ、親睦家族委員会の迫田委員長、吉田副委員長・東海林副委員長そして委員の皆様、大変お世話になりました、とてもお金の掛かった出発式に見えましたが無駄な贅肉は一つもなく、抑えて頂き、これも吉田副委員長のお力と親睦の皆様のお知恵と体力のお陰と感謝致します。ありがとうございます。

出発式



中田清秀君

本日は、新入会員卓話の時間を頂きありがとうございます。

今まで私が歩んできた自分と仕事についてお話をさせていただきます。

私は、昭和48年1月16日に千葉県船橋市で生まれました。家族は、同年の家内と中学2年生の息子、小学校5年生の娘の4人家族です。

父と母は国際結婚をしております。父は、山形県東置賜郡川西町という米沢市から30分程度の村の出身です。母は、台湾の屏東県内埔という台湾の尻尾に位置する村の出身です。父が、国際電話の海底ケーブルを設置する技師で台湾に赴任したときに紹介で知り合ったのが縁だそうです。中学生の頃に「ルーツ」という番組を観て非常に感銘を受けた記憶があります。アフリカ系アメリカ人の方が、自分のルーツを求めてアフリカを目指すという番組だと記憶しているのですが、自分のアイデンティティをこの頃強く意識しておりました。

母方の生家は、「客家」という少数民族で華僑の3分の1を占めている民族です。ユダヤ人、アルメニア人、印僑、華僑が4大移動民族集団と言われておりますが、少数民族がゆえに土地を持たず、商人や革命家を多く排出している歴史があります。

太平天国の乱の洪秀全、孫文、鄧小平、李登輝、華僑のタイガーバームで有名な胡文虎、シンガポール初代首相のリー・クワンユー、現首相のリー・シェンロン、フィリピンのアキノ元大統領、タイ首相を2人輩出したチナワット家も「客家」出身です。子供の頃から、母親からそんな話を聞かされておりましたし、台湾の行くことが多く、自分のアイデンティティと自分が日本人であるということを強く意識した少年期でした。

ちなみに、「ルーツ」という番組の如く、今から20年ほど前に、母と一族が「ルーツ」を探し当て、福建省にある本家のお墓を建て直したそうです。笑い話ですが、本家に行ったところ、持ち物が欲しいとサンダルまでせがまれて「二度と行きたくない」と苦笑いしておりました。

高校生から大学生の時期には、自分のアイデンティティと日本人を意識した少年期を過ごしたため、本を読むことで様々な価値感を知ることと、日本の歴史に対して関心を持ちました。特に影響を受けたのは、司馬遼太郎、高杉良、山崎豊子、落合信彦です。

実話をベースに作られた小説を好んでおり主人公の生き方や信念に共感を覚えました。

大学生の頃にフォトジャーナリストの長倉洋海氏の「フォトジャーナリストの眼」という著書に感銘を受け時事通信社を志望しておりました。釧路に来て初めて知ったのですが、長倉洋海さんは、釧路市出身で昭和27年生まれ、釧路湖陵高校出身ということでビックリしております。どなたか、お知り合いの方がいらっしゃるのではないのでしょうか？

私は、一浪して明治大学経営学部に入學しております。実は、現役の受験では、釧路公立大学に入學許可を頂きました。道東で釣り三昧を密かに計画していた受験でしたが、私の釣りキチぶりを良く知っている両親から猛反対を受け入學を断念しております。小さい頃、「近所のドブで竹に糸と石を結んで釣りをしていた」といまだにからかわれております。

大学時代は、高校生の時の愛読書で落合信彦氏の「狼たちへの伝言」に影響されて、空手部に入部しました。

就職するにあたり、当初は時事通信を志望していたのですが、当時お気に入りだった高杉良氏の企業小説「小説巨大証券」を読んだ影響と会社OBの雰囲気憧れ野村証券を志望して入社することになりました。

私は、野村証券に入社してから一貫して営業畑を歩んで参りました。最初は、富山支店へ配属となり、一から新規顧客開拓を行いました。家内は富山支店時代に知り合い社内結婚しました。2か店目は、東京の自由が丘支店へ配属となり4年間過ごしました。自由が丘支店は、近隣に田園調布、等々力と言った日本でも有数の富裕層の方がいらっしゃるエリアです。当時はITバブルや証券税制の源泉分離課税の廃止が控えていたため、超優良企業の創業家から株券をお預かりさせて頂くなどビックリするような方とのビジネスを多く経験させていただきました。支店の土地柄、各金融機関、野村証券の他支店からの競争も激しく自分のスキルを高めて、且つお客様の要求されていることに的確に対処できないと全く相手にされない厳しい環境だったので非常に勉強になりました。

3か店目は、岡山支店への配属となり4年間勤務致しました。岡山は晴れの国おかやまとキャッチフレーズが在るほど台風や地震などの災害が殆どなく保守的な土地柄ですが、ベネッセやサンマルクを初めとした新しいビジネスを展開する会社が多く企業家精神が旺盛な土地柄で、在任中の4年間でも地元企業が3社上場しており非常に勢いがあるマーケットでした。岡山市にある後樂園にはタンチョウが飼育されており私が始めてタンチョウを観たのは実は岡山です。岡山市は釧路市と友好都市だそうです。当時石川遼がアマチュアで優勝したので岡山の東児が丘マリンヒルズというゴルフ場だったのですが、たまたま、私は観戦に行っており17番のショートでのバンカーからのチップインバーディは横で見ていて鳥肌が立ちました。サイン貰えばよかったといまだに後悔しております。

4か店目は、横浜支店への配属となり4年間勤務しました。当時の横浜支店は横浜西口支店と旧横浜支店（現横浜馬車道支店）を合併して出来た超富裕層に特化した大型店で、野村證券の予算規模で、日本一の支店でした。桜木町のみなとみらい地区のタワービル最上階に位置する店で、会議室から見える夜景はとんでもなく美しいのですが非常に利便性が悪い立地でした。この時は、学校法人、宗教法人、医療法人、財団、社会福祉法人に特化したチームで仕事をしておりまして、今まで経験してきたビジネスと違う経験をさせていただきましたが、後半は、リーマンショックがありリスク管理の重要性を嫌と言う程経験しております。

5か店目は、大阪の上本町支店への配属となり3年間勤務しました。大阪上本町は大阪城のお膝元で近鉄本社や松下幸之助さんの創業の地が近くにあり、昔の大阪の中心地であります。私の大好きな司馬遼太郎さんの出身高校、出身大学、お亡くなりになられた病院も支店の近くにあり、まさに歴史と商人の町です。

大阪弁は、お笑いの吉本の荒っぽいイメージがあるのですが、昔ながらの船場言葉は非常に丁寧で品が良く人情味のある言葉なのは意外でした。

6か店目で、釧路支店勤務となるわけですが、上本町支店勤務時の2年前の夏休みに、初めて釧路から屈斜路湖に2泊3日の家族旅行に参りました。さらには、昨年8月には再度釧路から屈斜路湖、阿寒湖に4泊5日の行程で釧路に家族旅行に来ております。どのような縁なのかわかりませんが、2度目の釧路旅行の時は前任の岡田にどのような行程を旅したら良いかなどの相談をしており、その8ヵ月後に釧路勤務になるとは岡田も私も大変驚きを覚えました。

話は替わりますが、アベノミクス以降、日本経済の局面は大転換してきております。

1つ目は、5月の失業率は3.5%となりました。失業率には、需要不足による失業率とミスマッチによる失業率があります。日本のミスマッチによる失業率は3.5%前後とされており、これ以上仕事の需要が増えても失業率は下がらないというレベルに達しております。

2つ目は、黒田日銀総裁による異次元緩和はインフレターゲットを2%としておりますが、5月の消費者物価指数は前年比3.4%の上昇（うち消費税の影響2%）となり昨年11月以降7ヶ月連続で実質1%以上の上昇になっております。実質金利という考え方があるのですが、今現在の日本の10年国債の利回りは0.52%程度で本年の消費者物価指数が1.4%になると予測されているので10年国債の利回り0.52%から消費者物価指数1.4%を引くと実質金利は-0.88%となりお金の価値は目減りしてきているという考え方です。もうデフレではないということです。

3つ目は、需給ギャップが解消されてきているということです。1月～3月期の需給ギャップは日銀推計でプラス0.6%となっておりこれは、日本経済が長く続いた供給過剰状態が解消してきたことを意味しております。

4つ目は、動かないお金を動かすという水面下の政策です。

日本の公的年金は157兆円在りますが現在の基本ポートフォリオは国内債券57%国内株式16%海外債券10%外国株式14%となっておりますが、他先進国公的年金に比較して分散度合いが低いといわれてきました。今年の秋口にかけては基本ポートフォリオ変更が予測されており、国内債券の比率を現状の57%から40%程度に大幅に引き下げられ国内外の株式と外国債券への投資比率上昇が予想されております。157兆円の17%の変動は26兆円規模になります。

また、日本の個人の金融資産1645兆円のうち現在、現預金比率が53.1%とデフレ環境下大半が現預金になっておりますが、NISA等少額非課税制度の導入で個人金融資産のインフレ資産へのシフトも目論んでおります。

最後に、日本の上場企業の2013年度は過去最高利益を記録しており内部留保は法人減税分(+5.6兆円)を加味すると2015年度は22.3兆円に上ると試算されております。本年1月からJPX400指数というROEを基準にした新指数が稼動しており、高いROEの会社が採用される新指数となっております。ちなみにROEとは株主資本利益率のことで純利益を自己資本で割って算出される指標で会社の資本効率を見る指標です。

企業が内部留保するのか、自社株買いもしくは、配当を通じて株主に還元するのかでROEの水準は大きく差が来てます。成長戦略では企業統治に強化などを盛り込み機関投資家に投資先への対話を求める「日本版スチュワードシップ・コード」を導入しており、今後、物を言う株主が増加することで日本の上場企業の資本効率の向上と株主還元を積極的に働きかけられる環境造りも行われております。

野村證券の創業の精神の中で「証券報国こそは野村證券の職域奉公の実態にして、あくまでもこれを貫徹すべく」というものがあります。証券を通じて国に報いなさいという考えです。今、この環境下、私は自分の仕事を通じて釧路を中心とした道東エリアの経済発展に微力ながらお役に立ちたいと考えております。

最後に、歴代の支店長より「釧路北ロータリーの皆様には大変良くしてもらった」と皆が一様に感謝していることに、最初非常に驚きを感じましたが、実際自分がロータリーに入会させていただいて皆様から暖かく声をお掛けいただくことで、彼等が言っていた意味がわかるような気がしております。早く皆様と打ち解けてロータリー活動が楽しめる様になりたいと強く感じております。

また、転勤族ながらの視点も持って釧路北ロータリークラブの皆様にお役に立てる様活動して参りたいと考えております。

今後とも、暖かいご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

本日はありがとうございました。



瀧山 周治君

第1章 瀧山周治の生い立ちと二つの宝物

改めまして、私、瀧山周治と申します。

昭和48年5月10日、午前6時32分、釧路市はさつき産婦人科にて産声を上げました。

現在の私からは想像がつきにくいのですが、出生時は身長48cm体重2800gと意外に細長かったと聞いております。

また、産声を上げた、と先ほど述べましたが、実のところ臍帯が首にからまって出てきたため、生まれおちると同時に首つり状態に陥り、無呼吸状態でしたので産声は蘇生後だったと思われまふ。その後はさして大きな問題もなく、厳格な父征治と優しい母扶由子、物分りの良過ぎる爺婆に甘やかし気味の叔母、わりと生真面目な従兄達に生まれ、時代時代に楽しく付き合ってきた親友、悪友らと共に現在に至るまで成長して参りました。歳も32を越えた辺り・・・厳密には30くらいからの様な気もするのですが、私、人生2度目のモテ期に突入致しました。最初は17～19歳頃でしたから、あまりにも日が開いてしまったため、私自身、危うくこのチャンスを見逃しそうになっておりました。

というのも、ちょうどこの頃居合にはまり、はまり過ぎて左腕を壊し医師から2年間の居合禁止を告げられるほどでしたから、周りの女性を恋愛対象で見る余裕などございません。その内、今度は華道に心奪われ、こちらもやはり大いにはまり、居合よりも遥かに妙齡のお嬢様方がいたにも関わらず、私の興味は華道の腕を磨くことにのみ執着してしまいました。このままモテ期が終わってしまうのでは、と誰しもが思い始めそうな矢先、華道教授の一人より「お見合いしない？」との話が舞い込んで参ります。正直お見合い話は2度目にして、前回は別の先生からの申し出とは言え断っている身でしたから、『断りづらいし、今後の華道に響いてもアレだし』との思いでOK致しました。そのお見合いが平成20年2月3日。

その後とんとん拍子に話が進み、同年4月26日結納、翌5月10日入籍、同年11月23日結婚披露宴・・・と、今思い出しても忙しい年でありました。

結婚後しばらくしてから分かったのですが、私と妻はお見合いする以前、実に26年前に公園で遊んだ仲でした。運命の赤い糸の長さ、半端ないね、とこれには夫婦揃って驚きました。

そんな私達に、平成22年9月9日、待望の息子『周久』が生まれ、念願の父、母になりました。

今年4歳になるやんちゃ坊主。

そしてその子を命がけで出産した妻。

私の宝物はこの二人、であります。

第2章 瀧山家の謎

突然ですが私、忍者の末裔です。

こう言うと、大体笑われます。

その体型で？が主な理由ですが、真実です。

数々の謀略や暗殺、城の破壊に護衛任務・・・と幅広く活躍し、一時は城をも任されるほどに屈強な一族であった、とされています。

またそのルーツは深く、家系図の始まりは平安時代の清和天皇を起点として残されております。西暦850年5月10日に誕生され、その血脈は現在に至る1164年もの間、受け継がれて参りました。しかし名字が現在の瀧・山と発するようになったのは西暦1320年くらいからで、その前は多・岐・山だったようです。赤松忍軍時代、主家に恐れを抱かれるほど強大な戦闘力を有していたため、一族暗殺の動きがありました。時の首領は戦いを避け、一門全員に名を多・岐・山から瀧・山に改め全国に散るべし、との号令をかけたのです。その結果、屈強と名を馳せた赤松軍は、西暦1333年の元弘の乱と六波羅の戦いで勝ち進んでおきながらも京まであと一步、というところで敗退し瀧山城に立て籠もることに。敵の隙を見て再度攻めるも、また敗退。結局、千種・結城軍の援軍と足利尊氏軍の協力を得、ようやく京に入ることができたそうで、決め手の戦力を欠いた状態では、詰められなかったのでしょう。

ちなみに瀧・山に改名したのは、瀧山城が元からあり、これならば発音上も同じで怪しまれることなく一矢報いた感がある・・・と考えたのかどうかは存じ上げませんが、子孫の私ならば、そう考えて改名に臨む気がします。

さて、その後は全国に広がるか・・・と思いきや、一門揃って織田家に暫く仕えた後、現在の三重県に活動の拠点を移し伊賀忍軍に入りました。赤松時代と同じ轍を踏まぬよう、毒にも薬にもならぬがまあ使える、程度に振る舞ったらしく、事実歴史の表舞台にはほぼ出て参りませんが、徳川の御代に唯一送り込んだ最強の刺客がおります。武州・瀧山の名で知られたクノーなのですが、一門以外は武州？瀧山？何それ？となってしまいます。では近年ドラマ化で名を馳せた大奥総取締・瀧山、と言えどご理解いただけるでしょうか。

彼女の任務は色々あったのですが、その多くは諜報活動で將軍の本意を常に把握し、動きがあれば逐一瀧山家に知らせるといったものでした。老中達の意を組まぬ、素の情報が欲しかったのかもしれない。

そういった体制が実を結んだのかどうかは知り得ませんが、瀧山家は明治維新前後も時流に逆らわず時代を生き続け、明治時代後半、時の瀧山家当主瀧山専芳は板垣退助氏より蝦夷東部の教育開拓を依頼されこれを承諾。長らく拠点とした三重県は伊賀上野に妹を残し、現在の十勝平野から釧路あたりまでの範囲に数々の学校を作るため入植いたしました。

ここより、北海道瀧山の歴史が始まり、その後当主は順之助、十一、一芳と移り変わり現在に至ります。

余談ではありますが、三重瀧山として残った専芳の妹リエは、専芳が開拓に出る前に武田晴信からなる武田氏の直系男子を婿養子として迎えました。

清和天皇を起点として代々家名が移り変わる中、瀧山家は甲斐武田の武田信光に起点を置く安芸武田氏にその本流を置いております。その武田信光は、武田晴信の直系祖先でもあり、言わば安芸武田と甲斐武田は親子の様な血筋柄。

恐らく専芳は、血族の退化を防ぐため800年近く前の祖先に連なる婿養子を妹に求め、現代風に言うならばY遺伝子の補完に努めたのでしょう。

会ったことはないけれど、スゲえな爺ちゃん、と心から敬意、であります。

時に、何が瀧山家の謎、なのか。

実は今までの話は前置きに過ぎません。

謎、と言うよりは不思議、に近い話なのですが、今少し述べさせていただきます。

謎その① 補填し合う名前

長い家系図ですから、同じ名前が出てくるのはしょっちゅうです。これを謎とか不思議、なんて言いますとキリがありません。しかしながら、我が家のは少しばかり違うのです。昔は省き、近代の者から抜粋致しますが、まず十一の長女・豊子が嫁に行きました。当然苗字が代わって瀧山豊子がいなくなりました。すると十一の長男・一芳のもとへ同じ字の豊子が嫁に来て、瀧山豊子が復活しました。次に十一の次女・扶由子が嫁に行きますと、やはり次男・征治に同じ字の扶由子が嫁いで参りました。

さすがに3人目はあるまい、とっておりましたらリエという名前の私の従妹が居りまして、専芳・妹とカブリます。偶然にしろ、補填し合っている気がするのです。

数年前ですが、私とは意外とウマの合っていた久叔父が亡くなりました。

その後、私のもとへ嫁いできた妻の名は久美。ヒサシとクミのク、が同じ字なんですね。

謎その①、でした。

謎その② 代々当主へと受け継がれる小太刀

私から数えて4代前。

順之助の葬儀で起こった不思議な出来事です。

我が家には代々伝わる小太刀があり、冠婚葬祭には欠かせぬアイテムのひとつとされてきました。勿論、順之助の葬儀でも枕もとに置かれ、死者の魂を守る護守刀としての任にあたっていたそうです。その夜、長男の嫁として頑張っていたヨシイさんは、明日も朝から大変なので先に休ませてもらいました。すると夢枕に死んだ順之助が立ち「お前にこれを託す」と言って例の小太刀を手渡しました。ハッと目が覚めるともう朝。急いで小太刀を見に行くと、枕もとにあった小太刀はどこにもなく、寝ずの番をしていた親族一同、誰も出入りしていないはずと起きていたけれど小太刀が消えたのは知らなかった、とか。夢の話の皆に告げると妙に納得して、爺さんが夢にまで持って行ったから消えたんだ、ということで落着。こんな話を私が父より教えてもらったのは、ヨシイ婆さんが亡くなる直前の朝食の折でした。「実は昨晚なのか朝方なのかは分からないけど、夢の中でヨシ 『おや、周治が来たのかい？』と言って笑うんだ。それで【婆ちゃん、なんで刀なんて持つてるんだ？】と聞いたら『周治は刀が好きかい？』と言うわけだよ。

刀はむしろ好きな方だから【好きだよ】と答えたら『じゃあ、お前にあげようねえ』と言って刀を俺に握らせ、スーッと消えてしまった。」という、私が見た夢の話聞いた父が「そうか、アレはお前がもらったのか。はっはっは。大事にしろ。」と笑っていました。

次に私は誰に渡すことになるのでしょうか。

願わくば、遠い未来で渡したいと思います。

謎その②、おしまい。